6月県議会　印西市特集
新印西市の発展に全力
たきた（滝田）敏幸（としゆき）県議

印旛沼・手賀沼土地改良事業
迫られる設備更新
目立つ老朽化

6月県議会で8度目の一般質問に立つ滝田敏幸県議

滝田議員　長年に渡り、印旛沼と手賀沼の二つの沼周辺の米作りを支えてきた農業基幹水利施設が、造成後、四十年から五十年もの長い年月を経て老朽化が著しくなり、その整備更新は待ったなしの緊急の課題になっている。

印旛沼周辺では「国営・流域水質保全機能増進事業印旛沼二期地区」として、二十二年度の国予算の箇所付けが行なわれ、安堵している。一方、手賀沼地区については、排水機場のすべてポンプで支障が判明した。この排水機場は周辺農地の排水を行なうだけでなく、都市区域を洪水被害から守る機能を併せ持つ重要な施設だ。

そこでうかがうが、国営印旛沼二期地区の正式着工に向けた今後の予定はどうなっているのか。

農林水産部長　現在、土地改良法に基づく事業の開始手続きに入っており、地元土地改良区は、受益農家の方々に対して、本年四月より事業に対する同意の徴集を行っております。

六月三日現在で、同意率は、既に70％を超えており、近々、受益農家の代表の方が事業の施行申請を行い、所要の手続きを経て、本年度内に正式着工する見込みであると聞いております。

滝田議員　手賀排水機場ポンプ故障の修繕について、現在の復旧状況はどうなっているのか。また、県は、今後どのような対策を講じるつもりか。

農林水産部長　手賀排水機場の六台あるポンプのうち、二台については、既に平成二十二年三月に応急対策を終え、運転できる状態になっております。

また、残る四台のうち三台については、現在応急的な対策を順次進めており、八月末までに合計五台のポンプが運転再開できる予定です。

今後、排水機場全体の保全対策工事を行いたいと考えており、平成二十三年度からの基幹水利施設ストックマネジメント事業の実施に向け、関係市町及び土地改良区と協議を行ってまいります。なお、保全対策工事が完成するまでの間、緊急的な排水については、手賀排水機場と機能分担している国土交通省の北千葉揚排水機場との連携体制を取っているところです。

白井市議会が補助金予算案削減
北総鉄道の運賃値下げ合意崩壊も

滝田議員　白井市議会で北総線の運賃値下げに係わる補助金予算案が削除された。万が一、このまま白井市で予算措置がなされないまま、事態が推移すれば、北総鉄道への公的支援の枠組みは崩れ、国の調整案に基づいて結ばれた地元と鉄道事業者の合意は白紙になる可能性も否定できない。

もしも運賃が元に戻ってしまう事態になれば、沿線住民の日常生活への影響が大変大きい。そうなった場合、誰が責任を負うのか。

そこでうかがうが、白井市が予算措置できていない状況の中で、今回の北総線運賃値下げ合意についての県の考えはどうか。

知事　今回の北総線運賃値下げの合意は、前原国土交通大臣が提示した調整案を、県と沿線六市、鉄道事業者が受け入れることで実現したものです。現在、この合意に沿って、白井市を除く五市と県は、予算措置をし、鉄道事業者も、法に基づく手続きを終了し、本年七月十七日から運賃値下げが実施される予定です。

県としては、今回の合意内容は、実現可能な運賃値下げとして最善のものと考えています。

県と沿線六市が一体となって履行するために、白井市には責任を持った対応をお願いするとともに、白井市議会にも、ご理解を賜りたいと思います。

再質問

滝田議員　仮に白井市が予算措置できなかった場合に鉄道事業者、すなわち北総鉄道は黙っていないと思うが、どのような対応をするのか何か聞いているか。

知事　北総鉄道からは、「白井市が予算措置できず、合意内容が履行されなければ、民間会社として、当然、運賃は元に戻す」と聞いています。

なお、五月十三日に、白井市長が北総鉄道社長と面談した際、社長から同じような発言があった、と白井市からうかがっています。

滝田議員　万が一、正式合意に基づく白井市分の補助金二千六百万円が白井市議会を通過せずに不足した場合でも、北総鉄道に対して、千葉県は追加支出をするつもりがあるかどうか、うかがいたい。

知事　県としては、今回の運賃値下げは、鉄道事業者の負担と、県と沿線六市が一体で補助することで、実現するものと考えていますので、肩代わりすることは考えておりません。

滝田議員　県が鉄道事業者からパスモのシステム構築費用などで、損害賠償請求を受けた場合、どのような対応をするのか。当然、私は一切応ずるべきではないと考えるが、県の基本的な考え方を伺いたい。

知事　北総鉄道は、既に鉄道事業法に基づく、運賃値下げの届出を行い、必要なシステム改修などを実施しており、今回の合意書の内容を、誠実に履行しています。損害賠償については、会社から具体的なことは聞いておりませんが、そのような事態にならないためにも、白井市には責任を持った対応をお願いしたいと思います。

要望

滝田議員　ただいまの答弁は、県議会という公の場で、白井市議会が予算措置の議決を行わなかった場合、「一旦値下げされた北総鉄道の運賃が元に戻る」という認識を、千葉県が明確に示したという点で大きな意味を持っている。

私が得ている確実な情報によると、万が一の場合、北総鉄道は「来年四月には上限運賃に戻さざるを得ない」とのことであります。

とりわけ、印西市や白井市では現時点でも、自治体独自に補助金を出しているため、通学定期割引が無くなれば、実質値上げとなってしまいます。

千葉県としても、今後沿線六市と協議を重ね、事態の収拾に当たるよう強く要望します。